

あれこれかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2022年9月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
9月	554	446	394	7	0	1,401	1,406	65	189	135	131	476	3,803
累計	3,879	2,747	2,636	52	42	9,356	9,199	318	1,212	808	721	3,260	24,874

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📌 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

I/C0 京成市川真間駅にある「鏡石」について知りたい。

『市川市史 民俗編 台地・町・海辺の暮らしと伝承』（市川市史民俗編編集委員会／編集 2020）p.300に「かつて、弘法寺から国分寺へ行く石橋の傍らに鏡石と呼ばれる石があった。」
「鏡石は昭和になって京成市川真間駅に移されたが、その後、駅の工事の際に行方がわからなくなり、現在、駅の南側階段下に置かれている鏡石は新たに置かれたものである。」等の記載がある。また、文中で紹介されている『江戸名所図会 下』（[斎藤幸雄／ほか著] 評論社 1996）p.720-721に図と由来が、『房総叢書 第4輯』（千葉県郷土資料刊行会 1972）に収録されている『葛飾記』p.343に鏡石の名前の由来や生石伝説が記載されている。

他にも、『市川のむかし話 続』（市川民話の会 1990）p.157-159に「鏡石」の昔話が掲載され、『たくみぼり彙報 第2巻 私の市川学 村の時代II』（鈴木恒男／著 1994）p.3-21には著者による鏡石にまつわる研究成果が報告されている。

I/F5 市川市の虫がスズムシになった経緯を知りたい。

市川市公式 Web サイトのサイト内検索や市川市例規集のフリーワード検索では“市の虫” “スズムシ” の該当なし。

『いちかわ便利帳 2021-2022年版』（市川市企画部広報広聴課／編集 2021）p.1に市川市のシンボルたちとして、「市民の昆虫 スズムシ 昭和 51年 10月 21日指定」とある。

『市勢概要 昭和 52年版』（市川市議会事務局 1977）p.20に「S51年 10月一般公募により市民の鳥にウグイス、市民の昆虫にスズムシが決定される」と記載されている。

『広報いちかわ 昭和 50年～51年』（市川市役所 1976）昭和 51年 9月 1日号（No. 299）p.4には「市川の豊かな自然に親しみ、自然を愛護する市民のシンボルとして鳥と昆虫を選定します。」として「市民の鳥・昆虫を募集」の記事が掲載されている。昭和 51年 11月 1日号（No. 301）p.4に一般公募の結果、2,310名の応募があり、鳥ではウグイスが 584票、昆虫ではスズムシが 362票で最も多く、市民の鳥がウグイス、市民の昆虫がスズムシに決定したという記事が掲載されている。スズムシを選んだ理由は「静かにふけてゆく秋の庭に鳴きつづける声が美しいから」というものが大部分だったとある。

070.2 イギリスの、Gentleman's Magazine という雑誌に数学の問題（難問）が毎回掲載されていたと伝え聞いたが、そうした事実はあるか。それが Gentleman's Magazine ではなかった場合、何という雑誌か分かるか。

Gentleman's Magazine は 18 世紀頃の創刊、20 世紀頃に廃刊となり、その難問を毎回優秀な成績で解いた女性がいる、というのが逸話として有名とのこと。

インターネットで、“Gentleman’s Magazine”と”mathmatical”を掛け合わせて PDF を対象に検索して ScienceDirect (<https://doi.org/10.1016/j.hm.2013.07.001> 10/25 確認) を発見。項目 “Journals and periodicals” にて「The Gentleman’s Diary」「The Gentleman’s Magazine」「The Ladies’ Diary」「The Monthly Review」等の雑誌名の記載あり。

その内の “The Ladies’ Diary” を検索したところ MAA (Mathematical Association of America) のホームページ (<https://www.maa.org/press/periodicals/convergence/the-ladies-diary-a-true-mathematical-treasure> 10/25 確認) や、Wikipedia “The Ladies’ Diary” (http://en.wikipedia.org/wiki/The_Ladies%27_Diary 10/25 確認) にて毎回数学の問題が掲載されていた内容が確認できた。「The Gentleman’s Magazine」(1731-1907) に数学の問題の載った巻号があることは、HATHI TRUST Digital Library (<https://catalog.hathitrust.org/Record/000542092> 9/14 確認) で確認できたが、「数学の問題 (難問) が毎回掲載されている雑誌」は「The Ladies’ Diary」(1704-1841) とみられる。

- 913.39 冷泉天皇について記した本や web サイトでは、かなりの奇行 (足が傷ついても一日中蹴鞠をしていた等) があったように記され、大江匡房の日記『江記』にそう書かれている、とある。『江記』の何年何月にそのような記載があるのか知りたい。『史料大成 第 22 巻』は確認したが、奇行の記載はなかった。

『国史大辞典 5』(吉川弘文館 1985) p.301によると「江記」は、「日日記(ひにっき)の形で伝わっている書物はなく、他人の日記や部類記に引用された記事のほかは、(中略)、別記が遺されているだけ」で、活字資料として残されているのは、別記にあたる『史料大成 増補 第 22 巻』(臨川書店 1975)、『続々群書類従 5』(国書刊行会/編 続群書類従完成会 1978)のみ。どちらも「天仁元年十一月」のみの掲載で、冷泉天皇についての記述は確認できず。

『歴史物語講座 第 7 巻』(風間書房 1998) の p.221-237 に「歴史物語と記録」として「江記」について記載されており、そこには、「四十四年間以上の長きにわたって筆録されていたにもかかわらず、現在では十文字たらずのような短文なものをも含めてもわずか二百条余しか認められておらず」「まとまったの条文は残っておらず、現在は諸書からの逸文を集成した『江記逸文集成』でその姿をかいまみりという状況」とある。そこで、『江記逸文集成』(木本好信/編 国書刊行会 1985) 千葉県立西部図書館所蔵を確認したところ、人名索引から「冷泉院」についての記載は、「寛治元年 4 月 22 日」、「寛治 7 年 10 月 12 日」の 2 日が該当した。漢文であるため読み下した範囲での確認だが、「寛治 7 年 10 月 12 日」に冷泉天皇のいくつかの奇行を記載したと思われる箇所がある。なお、前述の『歴史物語講座 第 7 巻』の p.231-232 にも、「寛治 7 年 10 月 12 日」の全文が掲載されている。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
I/F5	昔の「市川グラフ」という大判のグラフ誌を探している。	⇒『City Voice 市川の街から』(市川市企画部広報課/編集)の副題が「グラフ市川」で 1986 年から 2009 年まで刊行。
I/Q2	市川市の障がい児学級の設置についてわかる資料はあるか⇒市川市公式 Web サイトに令和 4 年度特別支援学級・通級指導教室の設置校	(https://www.city.ichikawa.lg.jp/common/edu17/file/0000403765.pdf 9/14 確認) が掲載されている。
493.1	アニサキスによる食中毒について、特にサバとの関連が知りたい。	⇒『魚貝類とアレルギー』(塩見一雄/著 成山堂書店 2003) p.138-146 にアニサキスアレルギーの解説がある。
913.6	三浦綾子の「小林多喜二の母」という小説を探している。	⇒映画「母 小林多喜二の母の物語」の原作である『母』(三浦綾子/著 角川書店 1996) を提供。
915.36	更級日記を変体仮名で読める本はあるか?⇒原本(底本)を写真印刷によって複製した影印本を探す。市内所蔵なし。『御物更級日記』([菅原孝標女/著] 藤原定家/筆 笠間書院 1995) 千葉県立中央図書館所蔵、『更級日記: 影印本』([菅原孝標女/著], 犬養廉/編 新典社 2016) 国立国会図書館所蔵を紹介。	